

【声に出して読む】 俳句 正岡子規 一

柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺

かきくえば かねがなるなり ほうりゅうじ

いくたびも 雪の深さを 尋ねけり

いくたびも ゆきのふかさを たずねけり

春や昔 十五万石の 城下かな

はるやむかし じゅうごまんごくの じょうかかな

糸瓜咲て 痰のつまりし 仏かな

へちまさいて たんのつまりし ほとけかな

【声に出して読む】 俳句 正岡子規 二

鶏頭の 十四五本も ありぬべし

けいとうの じゅうしごほんも ありぬべし

今朝の秋 何やらゆかし すゝむしよ

けさのあき なにやらゆかし すずむしよ

松の葉に かかるしらゆき 見て通る

まつのはに かかるしらゆき みてとおる

葛の花 踏みしだかれて 色あたらし

くずのはな ふみしだかれて いろあたらし

【声に出して読む】 俳句 正岡子規 三

痰一斗 糸瓜の水も 間にあはず

たんいっと へちまのみずも まにあわず

大根引 大根で道を 教えけり

だいこんひき だいこんでみちを おしえけり

鰯雲 人に告ぐべき ことならず

いわしぐも ひとつぐべき ことならず

竹の春 沖のかもめに 月ささず

たけのはる おきのかもめに つきささず

【声に出して読む】 俳句 正岡子規 四

雪残る 頂ひとつ 国境

ゆきのこる いただきひとつ くにざかい

野菊咲く 野はありのまま 夕日かな

のぎくさくのはありのまま ゆうひかな

鶯の 鳴くやさびしき 桜ちる

うぐいすのなくやさびしき さくらちる

くれなるの 二尺伸びたる 薔薇の芽の

くれないのにしゃくのびたる ばらのめの

【声に出して読む】 俳句 正岡子規 五

夜やすらふ 富士の煙の うすれゆく

よやすらう ふじのけむりの うすれゆく

糸瓜咲き 病名は死と 診定しけり

へちまさき びょうめいはしと しんていしけり

幾山河 越えさり行かば 寂しさの

いくやまかわ こえさりゆかば さびしさの

曼珠沙華 どこまで行っても 道の果

まんじゅしゃげ どこまでいっても みちのはて